

(H25グループ化:メロン)

平成25年度 農薬登録における作物グループ化検討試験明細書

(試験期間 25年6月 ～ 25年7月)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型	①イブロジオン(ロズラール)水和剤		
	②エトフェンブロックス(トレボン)乳剤		
	③シハロトリン(サイハロン)乳剤		
	④レピメクチン(アニキ)乳剤		
	⑤アラニカルブ(オリオン)水和剤40		
	⑥クレソキシムメチル(ストロビー)フロアブル		
	⑦シエノピラフェン(スターマイト)フロアブル		
	⑧チアクロプリド(バリアード)顆粒水和剤		
	⑨トリホリン(サプロール)乳剤		
	⑩ビメトロジン(チェス)顆粒水和剤		
	⑪アミスルブロム(ライメイ)フロアブル		
	⑫フルベンジアミド(フェニックス)顆粒水和剤		
	⑬ベンチアバリカルブイソプロピル・T P N (プロポーズ)顆粒水和剤		
	⑭フルフェノクスロン(カスケード)乳剤		
	⑮シメコナゾール・マンゼブ(テーク)水和剤		
	⑯クロルフルアズロン (アタブロン) 乳剤		
(2) 有効成分名及び成分含有率	①イブロジオン	50%	
	②エトフェンブロックス	20%	
	③シハロトリン	5%	
	④レピメクチン	1%	
	⑤アラニカルブ	40%	
	⑥クレソキシムメチル	44.2%	
	⑦シエノピラフェン	30%	
	⑧チアクロプリド	30%	
	⑨トリホリン	18%	
	⑩ビメトロジン	50%	
	⑪アミスルブロム	17.7%	
	⑫フルベンジアミド	20%	
	⑬ベンチアバリカルブイソプロピル	5%、T P N 50%	
	⑭フルフェノクスロン	10%	
	⑮シメコナゾール	2.4%、マンゼブ 65%	
	⑯クロルフルアズロン	5%	
(3) 被験物質のLot No.	①16.10 PD13A0003	②15.10 R2G05	③15.10 A3A03
	④14.10 14Y40001	⑤15.10 2191	⑥15.10 HBB016
	⑦14.10-OBH228	⑧15.10.N203-10	⑨14.10 D2M01
	⑩15.10 S1K2GWG060	⑪15.10-OCA011	⑫16.10・SIL01
	⑬15.10 02E09	⑭17.10-NA328	⑮14.10 IYY40001
	⑯16.10 768891		

2. 農作物名	メロン	品種名	クインシー
---------	-----	-----	-------

3. 試験実施機関名	一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所
------------	-----------------------

試験圃場所在地	茨城県牛久市結束町535番地
---------	----------------

4. 試験責任者氏名	森田久孝, 小林照二, 橋本龍治, 小川和己, 後藤直人, 宮川直也, 有波友紀
------------	--

5. 土性	砂土・砂壤土・ 壤土 ・埴壤土・埴土 (○を付す)	減水深	—	cm/日
-------	----------------------------------	-----	---	------

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙1. に記載

7. 栽培概要			
播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等 被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載す			
露地・施設の別	施設(ビニールハウス)	有袋・無袋の別	—
播種：平成25年3月28日、定植：5月2日			
栽植密度：畝間180cm、株間45cm、条間50cm、2条植え、1本仕立て(立体栽培)、2470株/10a			
施肥(10a当たり)：			
処理区：平成25年4月22日堆肥 3000kg、4月23日配合594(5-9-4) 60kg・苦土重焼燐30kg、 6月3日くみあい尿素複合液肥1号 400倍			
無処理区：平成25年3月22日堆肥3000kg、4月4日配合594(5-9-4) 80kg・苦土重焼燐25kg			
その他の管理は、慣行に従った。			
収穫適期(適期)：7月中旬～7月下旬			

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)	
平成25年6月11日アファム乳剤2000倍・モレスタン水和剤4000倍・アミスター2070アブ® 2000倍、 6月20日ボリオキシナル水溶剤1000倍	
6月27日トップジンM水和剤2000倍・モレスタン水和剤4000倍	
7月12日ボリオキシナル水溶剤1000倍・トップジンM®-スト 株元塗布	
7月13日コロマイト乳剤1000倍・アドマイヤーフロアブル® 4000倍	

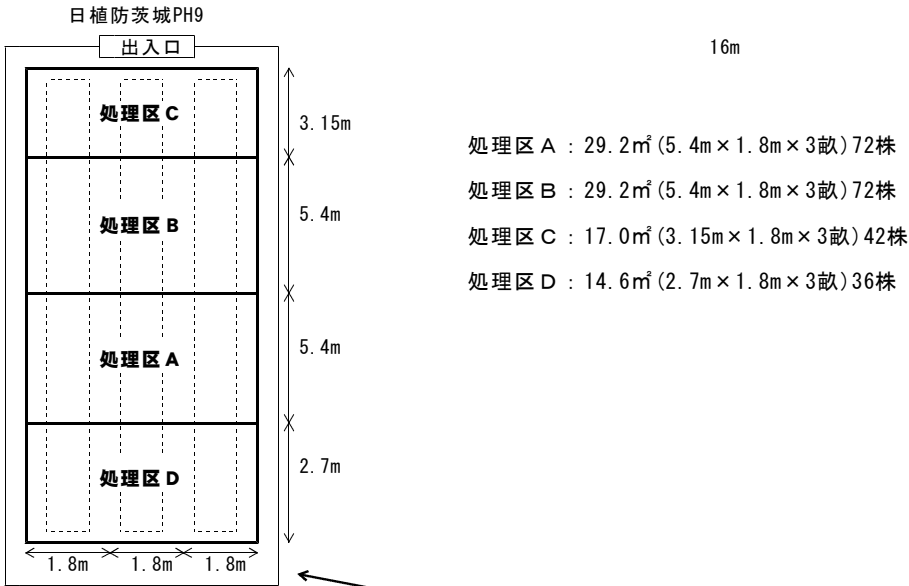
10. 試験区

(1)試験区の面積および(株)数
処理区A：29.2㎡(1.8m×5.4m×3畝) 72株、処理区B：29.2㎡(1.8m×5.4m×3畝) 72株
処理区C：17.0㎡(1.8m×3.15m×3畝) 42株、処理区D：14.6㎡(1.8m×2.7m×3畝) 36株
無処理区E：28.8㎡(1.8m×8m×2畝) 72株

(2)施設の場合、面積・容積・高さ
処理区A, B, C, D (PH9) 面積：116.2㎡、容積：355.2㎡、高さ：3.4m
無処理区E(残留ハウス2) 面積：99.6㎡、容積：294.5㎡、高さ3.3m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としてもかまいません)

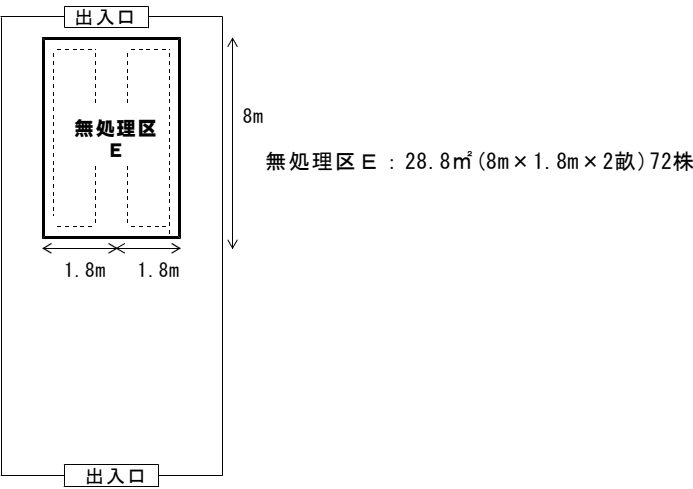
- ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



圃場内道路

ハウス間の距離は約20m

日植防茨城残留ハウス2



区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ステージ	処理方法（概略）
							1 O a当	試験区当（農薬量/散布量/面積）	実際に秤量した農薬量/薬液量		
H25年6月24日	オリオン				無処理	1000倍	247L	7. 2g/7. 2L/29. 2㎡	8. 0g/8L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎 葉 散 布
7月 1日	ロブラール					1000倍	260L	7. 6g/7. 6L/29. 2㎡	10. 0g/10L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
	トレボン					1000倍		7. 6ml/7. 6L/29. 2㎡	10. 0ml/10L		
	アニキ					2000倍		3. 8ml/7. 6L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
	オリオン					1000倍		7. 6g/7. 6L/29. 2㎡	10. 0g/10L		
7月 8日	ロブラール					1000倍	281L	8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
	トレボン					1000倍		8. 2ml/8. 2L/29. 2㎡	10. 0ml/10L		
	アニキ					2000倍		4. 1ml/8. 2L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
	オリオン					1000倍		8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L		
	ストロビー					2000倍		4. 1ml/8. L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
7月15日	ロブラール					1000倍	281L	8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L	果実成熟期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
	トレボン					1000倍		8. 2ml/8. 2L/29. 2㎡	10. 0ml/10L		
	アニキ					2000倍		4. 1ml/8. 2L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
	オリオン					1000倍		8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L		
	ストロビー					2000倍		4. 1ml/8. 2L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
7月22日	ロブラール					1000倍	281L	8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L	収穫期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
	トレボン					1000倍		8. 2ml/8. 2L/29. 2㎡	10. 0ml/10L		
	サイハロン					2500倍		3. 28ml/8. 2L/29. 2㎡	4. 0ml/10L		
	アニキ					2000倍		4. 1ml/8. 2L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		
	オリオン					1000倍		8. 2g/8. 2L/29. 2㎡	10. 0g/10L		
	ストロビー					2000倍		4. 1ml/8. L/29. 2㎡	5. 0ml/10L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
			特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月24日	散布機器：背負式バッテリー（丸山 MSB151） ノズル ：縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0） 散布方法：6月24日は薬液8L、7月1日以降は薬液10Lを散布機に入れ、1株を一定の時間で均一に散布した。		時刻 15：35 ～ 15：43	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 1日			時刻 15：36 ～ 15：45	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 8日			時刻 16：25 ～ 16：34	天候：晴れ（日中晴れのち曇り）、風の影響なし。
7月15日			時刻 11：20 ～ 11：29	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月22日			時刻 16：00 ～ 16：09	天候：晴れ（日中曇りのち晴れ）、風の影響なし。

- （1）展着剤

使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量
- （2）備考

試験薬剤の散布時には、試験区間を高さ約2.2mまでポリフィルムで遮蔽した。

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法（概略）
							10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した農薬量/薬液量	ステージ	
H25年6月17日		サブロール			無処理	2000倍	247L	3.6ml/7.2L/29.2㎡	4.0ml/8L	ネット形成始め (草丈約2m)	茎 葉 散 布
6月24日		サブロール				2000倍	247L	3.6ml/7.2L/29.2㎡	4.0ml/8L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		プロポーズ				1000倍		7.2g/7.2L/29.2㎡	8.0g/8L		
7月1日		サブロール				2000倍	260L	3.8ml/7.6L/29.2㎡	5.0ml/10L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		チェス				4000倍		1.9g/7.6L/29.2㎡	2.5g/10L		
		ライメイ				2000倍		3.8ml/7.6L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		プロポーズ				1000倍		7.6g/7.6L/29.2㎡	10.0g/10L		
7月 8日		バリアード				2000倍	281L	4.1g/8.2L/29.2㎡	5.0g/10L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		サブロール				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		チェス				4000倍		2.05g/8.2L/29.2㎡	2.5g/10L		
		ライメイ				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		プロポーズ				1000倍		8.2g/8.2L/29.2㎡	10.0g/10L		
7月15日		バリアード				2000倍	281L	4.1g/8.2L/29.2㎡	5.0g/10L	果実成熟期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		サブロール				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		チェス				4000倍		2.05g/8.2L/29.2㎡	2.5g/10L		
		ライメイ				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		フェニックス				2000倍		4.1g/8.2L/29.2㎡	5.0g/10L		
		プロポーズ				1000倍		8.2g/8.2L/29.2㎡	10.0g/10L		
7月22日		スターマイト				2000倍	281L	4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L	収穫期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
		バリアード				2000倍		4.1g/8.2L/29.2㎡	5.0g/10L		
		サブロール				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		チェス				4000倍		2.05g/8.2L/29.2㎡	2.5g/10L		
		ライメイ				2000倍		4.1ml/8.2L/29.2㎡	5.0ml/10L		
		フェニックス				2000倍		4.1g/8.2L/29.2㎡	5.0g/10L		
		プロポーズ				1000倍		8.2g/8.2L/29.2㎡	10.0g/10L		

(H25グループ化:メロン)

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H24年6月17日	散布機器：背負式バッテリー（丸山 MSB151） ノズル　：縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0） 散布方法：6月17日および24日は薬液8L、7月1日以降は薬液10Lを散布機に入れ、1株を一定の時間で均一に散布した。	時刻　14：25　～　14：33	天候：晴れ（日中曇りのち晴れ）、風の影響なし。
6月24日		時刻　15：50　～　15：58	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月　1日		時刻　16：00　～　16：09	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月　8日		時刻　16：55　～　17：04	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月15日		時刻　11：45　～　11：54	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月22日		時刻　16：36　～　16：45	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
（1）展着剤	使用せず	使用した区番号	展着剤名
（2）備考	試験薬剤の散布時には、試験区間を高さ約2.2mまでポリフィルムで遮蔽した。		
			濃度または量

(H25グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ステージ	処理方法（概略）
							1 0 a当	試験区当（農薬量/散布量/面積）	実際に秤量した 農薬量/薬液量		
H25年6月17日			テーク		無処理	600倍	247L	7.0g/4.2L/17.0㎡	10.0g/6L	ネット形成始め （草丈約2m）	茎 葉 散 布
6月24日			テーク			600倍	247L	7.0g/4.2L/17.0㎡	10.0g/6L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎 葉 散 布
7月 1日			カスケード			2000倍	265L	2.25ml/4.5L/17.0㎡	3.0ml/6L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
			テーク			600倍		7.5g/4.5L/17.0㎡	10.0g/6L		
			アタブロン			2000倍		2.25ml/4.5L/17.0㎡	3.0ml/6L		
7月 8日			カスケード			2000倍	282L	2.4ml/4.8L/17.0㎡	3.0ml/6L	果実肥大期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
			テーク			600倍		8.0g/4.8L/17.0㎡	10.0g/6L		
			アタブロン			2000倍		2.4ml/4.8L/17.0㎡	3.0ml/6L		
7月15日			カスケード			2000倍	282L	2.4ml/4.8L/17.0㎡	3.0ml/6L	果実成熟期 （草丈約2m）	茎葉散布（混用）
			テーク			600倍		8.0g/4.8L/17.0㎡	10.0g/6L		
			アタブロン			2000倍		2.4ml/4.8L/17.0㎡	3.0ml/6L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
		時刻	天候
H24年6月17日	散布機器：背負式バッテリー（丸山 MSB151） ノズル ：縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0） 散布方法：各回薬液6Lを散布機に入れ、1株を一定の時間で均一に散布した。	時刻 16：00 ～ 16：05	天候：晴れ（日中曇りのち晴れ）、風の影響なし。
6月24日		時刻 15：05 ～ 15：10	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月 1日		時刻 14：50 ～ 14：55	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月8日		時刻 16：10 ～ 16：16	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。
7月15日		時刻 11：10 ～ 11：16	天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。

- (1) 展着剤

使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量
- (2) 備考

試験薬剤の散布時には、試験区間を高さ約2.2mまでポリフィルムで遮蔽した。

(H25グループ化:メロン)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

区 分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法（概略）
							1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した 農薬量/薬液量	ステージ	
H25年6月10日				テーク	無処理	600倍	240L	5.8g/3.5L/14.6㎡	10.0g/6L	ネット形成前 (草丈約2m)	茎 葉 散 布
6月17日				テーク		600倍	240L	5.8g/3.5L/14.6㎡	10.0g/6L	ネット形成始め (草丈約2m)	茎 葉 散 布
6月24日				カスケード		2000倍	240L	1.75ml/3.5L/14.6㎡	3.0ml/6L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
				テーク		600倍		5.8g/3.5L/14.6㎡	10.0g/6L		
				アタブロン		2000倍		1.75ml/3.5L/14.6㎡	3.0ml/6L		
7月 1日				カスケード		2000倍	260L	1.9ml/3.8L/14.6㎡	3.0ml/6L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
				テーク		600倍		6.3g/3.8L/14.6㎡	10.0g/6L		
				アタブロン		2000倍		1.95ml/3.8L/14.6㎡	3.0ml/6L		
7月 8日				カスケード		2000倍	281L	2.05ml/4.1L/14.6㎡	3.0ml/6L	果実肥大期 (草丈約2m)	茎葉散布（混用）
				テーク		600倍		6.8g/4.1L/14.6㎡	10.0g/6L		
				アタブロン		2000倍		2.05ml/4.1L/14.6㎡	3.0ml/6L		

区 分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具（機械）、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
	散布機器：背負式バッテリー（丸山 MSB151） ノズル ：縦型2頭口コーンノズル（麻場CPW-21.0） 散布方法：各回薬液6Lを散布機に入れ、1株を一定の時間で均一に散布した。		時刻 15：10 ～ 15：14	天候：曇り（日中曇りのち晴れ）、風の影響なし。
時刻 16：10 ～ 16：14			天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。	
時刻 15：20 ～ 15：24			天候：晴れ（日中晴れ）、風の影響なし。	
時刻 15：00 ～ 15：04			天候：晴れ（日中曇り）、風の影響なし。	
時刻 16：15 ～ 16：20			天候：晴れ（日中晴れのち曇り）、風の影響なし。	
H24年6月10日				
6月17日				
6月24日				
7月1日				
7月8日				

- (1) 展着剤

使用せず

使用した区番号

展着剤名

濃度または量
- (2) 備考

試験薬剤の散布時には、試験区間を高さ約2.2mまでポリフィルムで遮蔽した。

区 分 採取月日	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	D 区 試料番号	E 区 試料番号	F 区 試料番号	G 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
H25.7月22日			C－1		E (無処理)			E区 時刻：9:35 ～ 9:40 天候：晴れ C区 時刻：10:10 ～ 10:12 天候：晴れ	E→C	E：10個／17.1 kg C－1：5個／8.8 kg	7月22日
7月23日	A－1	B－1						A区 時刻：8:45 ～ 8:47 天候：晴れ B区 時刻：9:07 ～ 9:11 天候：晴れ	A→B	A－1：5個／8.5 kg B－1：5個／8.6 kg	7月23日
7月25日	A－2	B－2						A区 時刻：9:45 ～ 9:47 天候：曇り B区 時刻：10:00 ～ 10:05 天候：曇り	A→B	A－2：5個／8.8 kg B－2：5個／8.5 kg	7月25日
7月29日	A－3	B－3	C－2	D				A区 時刻：9:15 ～ 9:18 天候：雨 B区 時刻：9:30 ～ 9:34 天候：雨 C区 時刻：9:50 ～ 9:52 天候：雨 D区 時刻：10:15 ～ 10:18 天候：雨	A→B→C→D	A－3：5個／9.1 kg B－3：5個／8.8 kg C－2：5個／8.9 kg D：5個／9.3 kg	7月29日

区 分 採取月日	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
7月22日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月23日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月25日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
7月29日	1. 試料の大きさは（やや大きい ☒ やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い ☒ やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは（やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは（やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある）2. 熟期は（やや早い 通常 やや過熟） 3. その他（ ） 4. 原因

（1）試料採取方法

使用した器具（機械）、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

各区、試験区の境界部（南北）を外した全体から大きさの揃った試料を鉢を用いて採取し、その都度清浄なプラスチック製のかごに入れた。

（2）採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱殻・粗すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

採取した試料は、1個ずつ包装紙に包んで段ボール箱に入れ、動かないように包装紙を詰めて箱の内側に試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けて梱包した。試料番号毎に梱包した。

（3）試料送付先

分析機関： 一般財団法人残留農薬研究所 化学部

（4）試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便で、いずれも到着を送付翌日に指定して送付した。

（5）備考

試験期間中の気象

観測地点および試料調製場所： 茨城県牛久市結束町535番地 一般社団法人日本植物防疫協会茨城研究所 (PH9)

観測条件： 気温:平均気温(1 時間毎)

(25年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
6	施設内気温 (℃)										24.8	22.5	24.9	23.8	26.0	27.8	24.6	27.2	28.7	24.8	21.1	22.3	24.7	27.1	24.7	26.6	22.5	27.5	25.0	26.4	26.2	
7	施設内気温 (℃)	24.2	26.2	23.8	25.8	26.9	29.5	33.2	32.1	33.5	32.7	33.1	30.7	29.5	30.8	28.3	26.6	23.6	30.5	26.2	25.1	26.0	28.9	29.1	24.6	28.2	29.6	28.8	31.3	26.2		

別紙1. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

薬剤処理区

すいか: 平成24年 6月11日 フルビ°カフロアフル2000倍
 8月 2日 アファム乳剤1000倍
 8月 9日 アト°マイヤー水和剤2000倍
 8月 9日、16日、23日 アフェットフロアフル2000倍・イキキハーモニ水和剤2000倍・フルビ°カフロアフル2000倍・モレスタン水和剤3000倍
 9月 3日 ヘ°ストガート°水溶剤1000倍・マイトコネフロアフル1000倍
 9月12日 ヘ°ストガート°水溶剤1000倍・モレスタン水和剤3000倍・アミスターオフ°ティフロアフル1000倍

無栽培: 平成25年 3月19日 テロン92 20L/10a 全面土壌点注処理

メロン: 平成25年 4月 5日 オ°ソサイト°水和剤80(育苗期)800倍灌注
 (試験作物) 4月30日 モレスタン水和剤(育苗期)4000倍
 5月 2日 ヘ°ストガート°粒剤2g/株植穴土壌混和
 5月17日 ランマンフロアフル1000倍・ねん着くん液剤100倍
 5月31日 ランマンフロアフル1000倍・モレスタン水和剤3000倍・ホ°リオキシAL水溶剤1000倍
 6月 6日 アト°マイヤーフロアフル4000倍・スピ°ノエス顆粒水和剤5000倍・トップ°ジンM水和剤2000倍

無処理区

メロン: 平成24年 6月27日 モレスタン水和剤3000倍・タ°ユニール1000 1000倍
 7月12日 モスピ°ラン水溶剤4000倍・タ°ントツ水溶剤8000倍

無栽培: 平成24年 8月 6日 ソイリン 20L/10a 全面土壌点注処理

メロン: 平成24年 8月21日 マイコター1000倍・ヘ°ストガート°水溶剤2000倍
 8月23日 モレスタン水和剤4000倍・スピ°ノエス顆粒水和剤5000倍
 8月29日 タ°ユニール1000 1000倍・ジ°マンタ°イセン水和剤600倍
 9月 4日 タ°ユニール1000 1000倍・フルビ°カフロアフル2000倍・スピ°ノエス顆粒水和剤5000倍
 9月13日 タ°ユニール1000 1000倍・アファットフロアフル2000倍・アファム乳剤2000倍
 9月20日 ライメイフロアフル2000倍・アミスター20フロアフル2000倍・ロフ°ラール水和剤1000倍
 9月26日 カーセ°ートPZ水和剤1000倍・スピ°ノエス顆粒水和剤5000倍・サンマイトフロアフル1000倍
 10月 4日 ロフ°ラール水和剤1000倍・アト°マイヤー水和剤2000倍

無栽培: 平成25年 3月19日 テロン92 20L/10a 全面土壌点注処理

メロン: 平成25年 4月 5日 オ°ソサイト°水和剤80(育苗期)800倍灌注
 (試験作物) 4月30日 モレスタン水和剤(育苗期)4000倍
 5月 2日 ヘ°ストガート°粒剤2g/株 植穴土壌混和
 5月17日 ランマンフロアフル1000倍・ねん着くん液剤100倍
 5月31日 ランマンフロアフル1000倍・モレスタン水和剤3000倍・ホ°リオキシAL水溶剤1000倍
 6月 6日 アト°マイヤーフロアフル4000倍・スピ°ノエス顆粒水和剤5000倍・トップ°ジンM水和剤2000倍

写真1. 処理区ハウス



写真2. 無処理区ハウス



写真3. 散布状況



写真4. 散布状況



写真5. A区第1回目散布時の果実



写真6. A区第2回目散布時の果実



写真7. A区第3回目散布時の果実



写真8. A区第4回目散布時の果実



写真9. A区第5回目散布時の果実



写真10. B区第1回目散布時の果実



写真11. B区第2回目散布時の果実



写真12. B区第3回目散布時の果実



写真13. B区第4回目散布時の果実



写真14. B区第5回目散布時の果実



写真15. B区第6回目散布時の果実



写真16. C区第1回目散布時の果実



写真17. C区第2回目散布時の果実



写真18. C区第3回目散布時の果実



写真19. C区第4回目散布時の果実



写真20. C区第5回目散布時の果実



写真21. D区第1回目散布時の果実



写真22. D区第2回目散布時の果実



写真23. D区第3回目散布時の果実



写真24. D区第4回目散布時の果実



写真25. D区第5回目散布時の果実



写真26. D区第6回目散布時の果実



写真27. D区第7回目散布時の果実



写真28. 採取状況



写真29. 無処理区試料



写真30. A区1日後試料



写真31. A区3日後試料



写真32. A区7日後試料



写真33. B区1日後試料



写真34. B区3日後試料



写真35. B区7日後試料



写真36. C区7日後試料



写真37. C区14日後試料



写真38. D区21日後試料



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

1. 被験物質（処理区A）

- (1) 一般名・剤型
①イブリン（イブリン水和剤）、②エトフェンロックス（エトフェンロックス乳剤）、③シハロリン（シハロリン乳剤）、④レピメクチン（レピメクチン乳剤）、⑤アミカルブ（アミカルブ水和剤）、⑥クレタキシメチル（クレタキシメチル水和剤）。
- (2) 有効成分名及び成分含有率
①イブリン 50.0%、②エトフェンロックス 20.0%、③シハロリン 5.0%、④レピメクチン 1.0%、⑤アミカルブ 40.0%、⑥クレタキシメチル 44.2%。
- (3) 被験物質のLot No.
①16.10 PD13A00003、②15.10 R2G05、③15.10 A3A03、④14.10 14Y40001、⑤15.10 2191、⑥15・10HBB016。

被験物質（処理区B）

- (1) 一般名・剤型
⑦シエノピラフェン（シエノピラフェン水和剤）、⑧チアクロプリト（チアクロプリト顆粒水和剤）、⑨トリホリン（トリホリン乳剤）、⑩ピメトジン（ピメトジン水和剤）、⑪アミスルフロム（アミスルフロム水和剤）、⑫フルベンジアミド（フルベンジアミド水和剤）、⑬ベンチアハリカルボキシプロピル（ベンチアハリカルボキシプロピル水和剤）。
- (2) 有効成分名及び成分含有率
⑦シエノピラフェン 30.0%、⑧チアクロプリト 30.0%、⑨トリホリン 18.0%、⑩ピメトジン 50.0%、⑪アミスルフロム 17.7%、⑫フルベンジアミド 20.0%、⑬ベンチアハリカルボキシプロピル 5.0%・TPN 50.0%。
- (3) 被験物質のLot No.
⑦14.10-0BH228、⑧15.10 N203-10、⑨14.10 D2M01、⑩15.10 SIK2GWG060、⑪15.10-0CA011、⑫16.10 S1L01、⑬15.10 D2E01。

被験物質（処理区C、D）

- (1) 一般名・剤型
⑭フルフェノクスロン（フルフェノクスロン乳剤）、⑮シメコナゾール・マンゼブ（シメコナゾール・マンゼブ水和剤）、⑯クロルフルアズロン（クロルフルアズロン乳剤）。
- (2) 有効成分名及び成分含有率
⑭フルフェノクスロン 10.0%、⑮シメコナゾール 2.4%・マンゼブ 65.0%、⑯クロルフルアズロン 5.0%。
- (3) 被験物質のLot No.
⑭17.10-NA328、⑮14.10 IYY40001、⑯16.10 768891。

2. 農作物名
メロン
品種名
雅夏206

3. 試験実施機関名
一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地
高知県香南市野市町深瀬本田1211

4. 試験責任者氏名
松村 栄一、内藤 覚、奴田原 誠克、森 克彦、川北 充彦、谷山 頼清。

5. 土性
砂土・砂壤土（**壤土**）・埴壤土・埴土・軽埴土（○を付す）
減水深
—
cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬（別紙としても構いません）

別紙に記載。

7. 栽培概要
播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度（畝間・株間）・株数（/10a）、水管理等、被覆資材（茶は寒れい紗番号）、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別
施設栽培
有袋・無袋の別
—

播種：平成25年5月2日、定植：5月21日、畝幅：140cm、株間：40cm、1条植、

約1800株/10a、施肥：平成25年5月20日 苦土石灰 100kg/10a、こうち園芸ペレット（6-8-4）

133kg、マルチ栽培、その他管理は慣行に従った。人工交配：6月15日～6月18日。

収穫期間（適期）：平成24年8月上中旬。

8. 生育ステージ
試験計画書に指定された生育ステージ
—
を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬（別紙としても構いません）

別紙に記載。

10. 試験区
処理区A、B：44.8㎡、80株、
処理区C：33.6㎡、60株、
処理区D：22.4㎡、40株、
無処理区E：22.4㎡、40株
- (1) 1試験区の面積および本（株）数
無処理区E：22.4㎡、40株
- (2) 施設の場合、面積・容積・高さ
処理区施設：面積：986㎡、容積：2909㎡、高さ：3.9m
無処理区施設：面積：841㎡、容積：2481㎡、高さ：3.9m
- (3) 試験区の配置図（試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません）

ア）下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ）試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ）圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。

